

現代アフリカの紛争

—歴史と主体—

武内進一編

現代アフリカの紛争

—— 歴史と主体 ——

武内進一編

アジア経済研究所

研究双書No 500

武内進一編『現代アフリカの紛争——歴史と主体』

Gendai Afurika no Funsō : Rekishi to Shutai

(Conflict in Africa : History and Subject)

Edited by

Shin'ichi TAKEUCHI

Contents

Introduction Conflict in Africa : Reflections on Its Recent Characteristics (Shin'ichi TAKEUCHI)

PART I Ethnicity in Conflict

Chapter 1 Everyday Forms of Ethnic Conflict and Super-Ethnicisation in Kenya (Motoji MATSUDA)

Chapter 2 A Re-examination of 'Ethnic Clashes' and the State in Kenya (Miwa TSUDA)

Chapter 3 Reification Process of Ethnicity in 1960s Burundi (Akira SATO)

PART II Historical Development of Identity

Chapter 4 Hutu and Tsuti : A Group Formation in Pre-colonial Rwanda (Shin'ichi TAKEUCHI)

Chapter 5 The Historical Usage of the Concept of Citizen and Its Limit : From the Republic of Liberia (Ichiro MAJIMA)

PART III Conflict Actors and International Community

Chapter 6 War without a Peaceful Settlement : The Sudanese Civil War and Its Various Actors (Eisei KURIMOTO)

Chapter 7 A Comment on Secretary-General K. Annan's Report : The Causes of Conflict and the Promotion of Durable Peace and Sustainable Development in Africa (Takehiko HARAGUCHI)

[Kenkyū Sōsho (IDE Research Series) No.500]

Published by the Institute of Developing Economies, 2000
3-2-2, Wakaba, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba 261-8545, Japan

現代アフリカの紛争

たけうち しんいち
武内 進一 (アジア経済研究所地域研究第2部)
まつだ もとじ
松田 素二 (京都大学大学院文学研究科助教授)
つだ みわ (アジア経済研究所地域研究第2部)
さとう あきら
佐藤 章 (アジア経済研究所地域研究第2部)
まじま いちろう
真島 一郎 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授)
くりもと えいせい
栗本 英世 (国立民族学博物館助教授)
はらぐち たけひこ
原口 武彦 (新潟国際情報大学情報化学部教授)

—執筆順—

現代アフリカの紛争

—歴史と主体—

研究双書500

2000年1月5日発行©

編者 武内進一

発行所 日本貿易振興会 アジア経済研究所

千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2-2 〒261-8545

研究支援部 電話 043-299-9536

FAX 043-299-9726

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-04500-4



目 次

まえがき

序章 アフリカの紛争——その今日的特質についての考察——

	……………武内進……………	3
はじめに……………		3
第1節 アフリカの紛争における今日的特質……………		6
第2節 今日のアフリカをめぐる政治経済的環境……………		15
第3節 アフリカの国家と紛争……………		20
第4節 越境する内戦……………		27
第5節 暴力の再解釈……………		31
第6節 本書の構成……………		38
[参考文献]……………		47

第I部 紛争のなかのエスニシティー

第1章 日常的民族紛争と超民族化現象——ケニアにおける

1997～98年の民族間抗争事件から——……………	松田素二……………	55
はじめに……………		55
第1節 民族紛争への眼差し……………		56
第2節 現代ケニアにおける民族紛争の諸相……………		61
第3章 民族紛争のルーツと1950年代のアフリカナショナリズム……………		68
第4節 リフトバレー州の土地問題……………		73
第5節 ケニアにおける超民族化現象……………		79
第6節 カレンジン現象の展開……………		86

おわりに——超民族化と民族紛争	92
〔参考文献〕	98
第2章 複数政党制移行後のケニアにおける住民襲撃事件	
——92年選挙を画期とする変化——	津田みわ・101
はじめに：問題の所在	101
第1節 「92年選挙前紛争」	104
第2節 1993年以降の住民襲撃事件	109
第3節 類型化の試み	127
結語	146
〔参考文献〕	153
第3章 1960年代ブルンジにおけるエスニシティーの意味	
——権力闘争における見なしと具象化——	佐藤 章・183
はじめに	183
第1節 「預言の自己完結」説批判	187
第2節 カメンゲ暴動の史的位置	199
第3節 モンロヴィア—カサブランカ対立の再検討	204
第4節 1965年事件と「断絶」	214
結語	222
〔参考文献〕	233
第Ⅱ部 アイデンティティーの史的展開	
第4章 ルワンダのツチとフツ——植民地化以前の集団形成に	
ついで覚書——	武内進一・247
はじめに	247
第1節 起源	250

第2節 政治的共同体の形成と発展	258
第3節 植民地化直前のツチとフツ	271
結びにかえて	279
〔参考文献〕	288
第5章 市民概念の語用とその限界——リベリア共和国から——真島一郎.....	293
序	293
第1節 リベリア国家史——市民規定の変遷とマンディング 295	295
第2節 移植された概念——市民・族・個人	316
結論——死を延期される古語	342
〔参考文献〕	350
第Ⅲ部 紛争主体と国際社会	
第6章 継続する内戦と成果のない和平調停 ——スーダン内戦をめぐるさまざまなアクター——.....栗本英世.....	357
はじめに	357
第1節 スーダン内戦の背景と多様なアクター	358
第2節 和平調停の試み	363
第3節 和平調停の効果と限界	377
〔参考文献〕	382
第7章 「国連事務総長報告：アフリカにおける紛争の諸原因と 永続的平和および持続的発展の推進」——文献解題——原口武彦.....	385
はじめに	385
第1節 「報告書」の構成	387

第2節 解題	389
まとめ——アナン国連事務総長と「国際社会」	405